

研究代表者 所属・職：国際福祉開発学部・教授

氏 名：千頭 聡

研究課題名：知多半島の NPO が有する社会的な価値に関する研究 part-1
—NPO スタッフの意識と活動実態に関する調査を通じて—

研究の目的

知多半島は全国的に見て NPO 活動が盛んな地域と言われ、特に地域福祉・子育てなどの分野では、幅広い活動を展開している NPO が数多くある。しかし、地域社会の中でこれらの NPO がどのような社会的価値を有しているのかについては、定性的な指摘にとどまっている。本研究は、知多半島の中で、NPO がどのような人的なネットワークを形成し、活動実績として地域課題の解決にどう貢献してきたか、そして、市民の活動および広い意味での雇用の場として存在しているかを様々な角度から分析し、NPO が持つ社会的な存在価値を可能な限り定量的に「見える化」することを目的としている。

プロジェクト目標の達成状況・成果内容

1) プロジェクト目標の達成状況・成果内容

本アンケート調査の結果分析を通じて、NPO で働くスタッフの意識や労働実態を把握・分析することができた。分析の結果見えてきた主な点は以下のよう

1. NPO が社会の中で活動・就労の場として社会的に認知されてきた。NPO が持つミッションに共鳴した強い想いをを持ったスタッフだけではなく、学生の就職の場としての機能も一定高まってきた。
2. NPO は地域の多様な課題に応えることができる存在であるとの意識は高いが、そのことが自分自身の仕事の満足感に結び付いているわけではない
3. 同時に、スタッフの中で、NPO で働くということに対する強い想いは必ずしも高くない。しかし、多様な働き方が可能であるということには高い評価がみられる。
4. 5 年前の調査と比較して、就労期間が延びてき

たことは、定着性が高まった結果であるが、世代交代が進まない側面もある

5. NPO で活動することにより、社会的な視野が広がり、やりがいを強く感じるなど、他の活動・就労の場とは大きく異なる意味がある。一方で、多忙ゆえに、家族とのコミュニケーションの時間が犠牲になったり、経済的には依然として十分な給与しか支払えていない状況もうかがえる。

優れた成果があがった点

以下の点が成果として特に指摘できる。

知多半島の NPO は、既存の社会制度ではカバーしきれない地域社会課題の発掘やそれに対する解決への行動を担ってきたという高いミッション性を有してきた。今回の調査結果からは、このような NPO のミッションに対して、活動に参加しているスタッフは、そのミッションに高いレベルで賛同していることが必須であるというよりも、社会の中で多様な働き方を実現できる場、あるいは、社会との多様なつながり方を実現できる場として理解し、参画していることが明らかとなった。このことは、積極的に評価すれば、NPO が持続可能な地域社会を維持し・創造していくために不可欠な社会資本・社会関係資本としてすでに位置づけられること意味している。このことが、本調査から得られた一つの重要な成果と考えられる。

研究期間終了後の今後の展望

NPO 法人地域福祉サポートちたの総会時に研究成果を公表し、サポートちたにつながる NPO の方々と意見交換を予定している。(5/25)

今後、本調査でカバーできなかった NPO 自体の運営分析・経営実態分析などについて、本調査の part-2 として、サポートちたの協力を得ながら、進め方について協議を進める予定である。